

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

平1-139329

⑬ Int.CI. 1

B 65 C 9/18

識別記号

庁内整理番号

8407-3E

⑭ 公開 平成1年(1989)5月31日

審査請求 有 発明の数 1 (全4頁)

⑮ 発明の名称 食品包装における飾片添加処理方法

⑯ 特願 昭62-290387

⑰ 出願 昭62(1987)11月17日

⑱ 発明者 林 醇 京都府京都市左京区吉田上阿達町28番地の9

⑲ 出願人 林 醇 京都府京都市左京区吉田上阿達町28番地の9

⑳ 代理人 弁理士 新実 健郎 外1名

明細書

1. 発明の名称 食品包装における飾片添加処理方法

2. 特許請求の範囲

概して平面方形状のトレーに対して、該トレーの内部に所望の食品を収容するとともに、前記トレーにおけるコーナ部分に非食品材からなる方向性をもつ形態の飾片を収容して、合成樹脂フィルム材によってトレーごと食品を包装する食品包装システムにおいて、

概して平面方形状のトレー内に所望量の食品を収容する工程と、

前記食品を収容したトレーを包装用合成樹脂フィルム材によって包装する工程と、

前記飾片を予め設定される方向性をもって離型性連続シート材上に間欠的に貼り合わせて飾片連続供給帯として供給し、前記包装されたトレーの供給過程中において前記飾片を前記飾片連続供給帯から一枚づつ剥がし取りながら、前記平面方形

状のトレーにおけるコーナ部分に、予め設定される方向に向けて前記包装用合成樹脂フィルム材の上面から貼り合わせて取付ける工程とからなることを特徴とする食品包装における飾片添加処理方法。

BEST AVAILABLE COPY

3. 発明の詳細な説明

(a) 産業上の利用分野

この発明は、食品をトレーごと包装用合成樹脂フィルム材によって包装する食品包装システムに関するものである。

(b) 従来の技術およびその問題点

従来、生鮮食品あるいは加工食品等の包装に際して、当該食品をトレーごと包装用合成樹脂フィルム材によって包装する食品包装システムが採用されている。この場合、包装食品に間連して方向性をもった形態に処理されているたとえば竹葉状の飾片が、該食品に対して添えられるようになっている。従来、前記飾片は、包装食品とともにトレー内に収容した状態で、包装用合成樹脂フィルム材によりトレーごと包装処理されている。上記する食品包装システムによれば、該飾片が食品に直接的に触れる点において衛生上その取扱いにおいて多くの問題点を有していた。

さらに、上記する従来の食品包装システムによ

れば、包装用合成樹脂フィルム材による最終的包装処理時に、トレー内に収容した飾片が、フィルムパックの前段階においてトレーの移動中に離脱したり、位置ずれしたり、あるいは折れまがってしまい、添加飾片としての役割を十分に発揮し得ないという欠点を有していた。

(c) 本発明の技術的課題

そこで、この発明は、上記するような従来の飾片を添加するような食品包装システムにおいて衛生上の問題を解消し、しかもトレーの形態に応じて飾片を予め設定される箇所に、予め設定される方向性をもって正確かつ確実に添加することができるようになした食品包装における飾片添加処理方法を提供することにある。

(d) 本発明の技術的手段

この発明は、上記する目的を達成するにあたって、具体的には、概して平面方形状のトレーに対して、該トレーの内部に所望の食品を収容するとともに、前記トレーにおけるコーナ部分に非食品材からなる方向性をもつ形態の飾片を収容して、

- 3 -

- 4 -

合成樹脂フィルム材によってトレーごと食品を包装する食品包装システムにおいて、概して平面方形状のトレー内に所望量の食品を収容する工程と、前記食品を収容したトレーを包装用合成樹脂フィルム材によって包装する工程と、前記飾片を予め設定される方向性をもって離型性連続シート材上に間欠的に貼り合わせて飾片連続供給帯として供給し、前記包装されたトレーの供給過程中において前記飾片を前記飾片連続供給帯から一枚づつ剥がし取りながら、前記平面方形状のトレーにおけるコーナ部分に、予め設定される方向に向けて前記包装用合成樹脂フィルム材の上面から貼り合わせて取付ける工程とからなる食品包装における飾片添加処理方法である。

(e) 本発明の実施例

以下、この発明になる食品包装における飾片添加処理方法について、図面に示す具体的な実施例にもとづいて詳細に説明する。

この発明において、トレー(1)は、適度の剛直性を有する合成樹脂材によって成形される。前記

トレー(1)は、その搬送処理等の関連において概して平面方形状に成形してある。すなわち、前記トレー(1)は、たとえば4つのコーナ部分(2)を有し、該トレーの搬送工程に間連して方向性を有する構造体のものからなっている。この発明では、まず、前記トレー(1)に対してその内部(3)に、所望の食品(4)、たとえば魚、肉、野菜等の生鮮食品あるいは天ぷら、サラダ等の加工食品が所望量収容される。前記トレー(1)に対して所望の食品(4)を収容した後、前記トレー(1)は、包装用合成樹脂フィルム材(5)によって全体的に包装処理され、包装体(6)として飾片等貼り合わせ位置(P)に間欠的に搬送供給されるようになっている。

一方、この発明において、天地方向性のあるたとえば竹葉状の飾片(7)は、第3図に示すように、飾片連続供給帯(8)として予め準備される。前記飾片連続供給帯(8)は、裏面に粘着剤層(9)を備えた飾片(7)を離型性連続シート材(10)上に間欠的に貼り合わせたものからなっている。前記

- 5 -

- 6 -

飾片(7)は、離型性連続シート材(10)に対し、その長さ方向に沿って予め設定される方向性をもって貼り合わされている。すなわち、天地方向性のある形態の飾片(7)は、前記離型性連続シート材(10)の長さ方向線(1)に対し、天地を結ぶ線(2)が、たとえば45°の傾斜角度をもって交差するよう貼り合わせてある。前記飾片(7)の傾斜貼り合わせは、前記包裝体(6)におけるコーナ部分に、予め設定される方向に向けて包裝用合成樹脂フィルム材(5)の上面から貼り合わせる際に、第2図AおよびBに示す貼り合わせ態様に対して方向性をもって対応することができるようになっている。

一方、この発明において、前記包裝体(6)における包裝表面に対して、商品ラベル(11)等も同時に貼り合わすことができる。この発明において、前記商品ラベル(11)は、前記飾片(7)と同様に、たとえば第4図に示すように、予めラベル連続供給帶(12)として準備される。前記ラベル連続供給帶(12)は、裏面に粘着剤層を備えた商品ラベル(11)

を、離型性連続シート材(13)上に間欠的に貼り合わせたものからなっている。前記ラベル(11)は離型性連続シート材(13)に対し、その長さ方向線(1)に対して天地を結ぶ線(2)が直交差する態様に、あるいは、平行する態様に貼り合わせである。

(f) 本発明の効果

以上の構成になるこの発明の食品包装システムによれば、概して平面方形状のトレーに対して、該トレーの内部に所望の食品を収容し、これを包裝用合成樹脂フィルム材により、ラッピング処理する際、当該トレーにおけるコーナ部分に、包裝食品に間連して添えられる飾片を方向性をもって正確にかつ確実に貼り合わせができる。一方、この発明における食品包装システムによれば、非食品材でなる飾片を、包裝用合成樹脂フィルム材の外側に貼り合わせによって取付けるようにした点において、衛生面の上においても、当該飾片の取扱いに有利なものであるといえる。

4. 図面の簡単な説明

第1図A～Dは、この発明になる食品包装における飾片添加処理方法の具体例をその工程順に示す概略的側断面図。

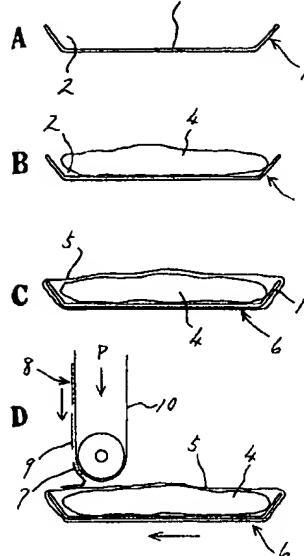
第2図AおよびBは、当該方法によって包裝された二つの包裝態様例を示す概略的平面図。

第3図は、飾片連続供給帶の例を示す概略的平面図。

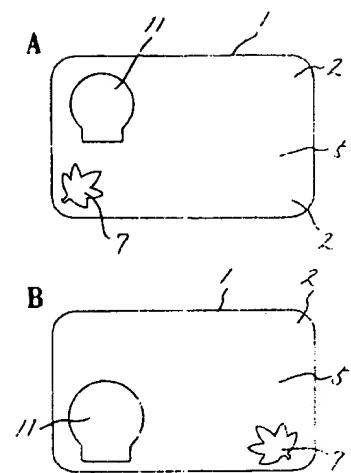
第4図は、商品ラベル連続供給帶の例を示す概略的平面図である。

- (1)……トレー
- (2)……コーナ部
- (3)……トレー内部
- (4)……包裝食品
- (5)……包裝用合成樹脂フィルム材
- (6)……包裝体
- (7)……飾片
- (8)……飾片連続供給帶
- (10)……離型性連続シート材

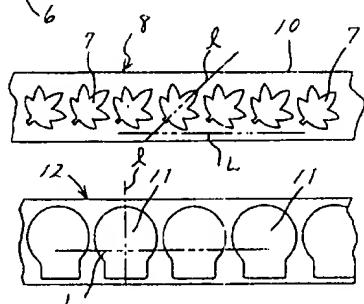
第 1 図



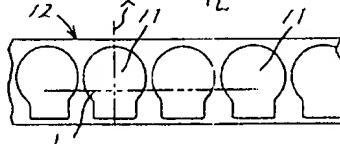
第 2 図



第 3 図



第 4 図



BEST AVAILABLE COPY